

10までの数に慣れよう①

フラッシュカード

～おうちの人と一緒に～



福岡県教育センター 2020

～はじめに～

保護者の皆様、本スライドを開いてくださりありがとうございます。

せっかく小学校に入学したのに、やる気もいっばいなのに、学校に行けず、友達とも遊べず、勉強できず...、そんなお子さんを見ながら胸を痛めてある方も多いでしょう。

そういう子供たちや保護者の方々に、少しでも力になりたいという思いで、このような教材を作成しています。「何とかしてあげたい」という気持ちは、私たち教育関係者も同じです。

ただ、前代未聞のこの状況をマイナスと考えるのではなく、「こんな時だからこそできることがあり、こんなときにしかできないこともある」と考えましょう。

この状況が落ち着いたとき、お子さんが、「あのとき、お母さん（お父さん）と、家で数字の遊びをしてたから、さんすうがとても分かるよ。楽しいよ。」
こう言ってくれることを願っています。

子供たちの周りの大人みんなが子供のことを第一に考え、力を合わせて、「今」を乗り切りましょう。

では、はじめます！

低学年の算数で大切なことは、数や図形に慣れることです。

低学年の子供たちの中に、しばしば

「算数が分からない...」

という子がいますが、私は、そんな子には、

「分からないのではなく、慣れていないだけですよ。」

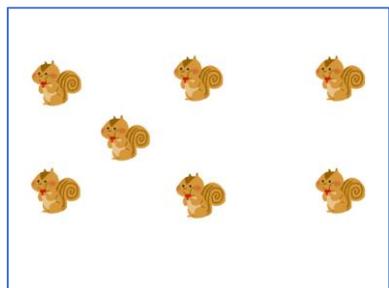
と言います。

例えば、自転車に乗ることで考えると、

「乗れない」ではなく「乗ることに慣れていない」となります。

数に慣れれば、たし算やひき算はとても簡単になります。

数に慣れるというのは、例えば、



この絵を見て、ぱっと「7」と答えられることです。

並んでいる絵を見て、ぱっと数が答えられるのは、

「こっちに5, こっちに2あるから7」

「7は、2と5だから」

というように、数を合成したり分解したりできるからです。

10までの数の合成・分解がぱっとできることは、

1年生の算数で一番大切なことです。

この後からのスライドは、1から10の合成・分解に慣れるように、動物や人物等をいろいろな並びで表しています。

ぱっと見せて、すぐに数を答えさせる遊びをして下さい。
(じっくり見て数えるのではなく)

すぐに答えることができたなら、

「どうしてすぐに分かったの？」

と来て下さい。

「だって、2と2があるから、4」

「5と1は、6だから」

このように答えられたら、それは、数の感覚が身についてきたと言えます。

数で遊びながら、数の感覚を付けましょう。

※一見、簡単のようですが、それは、数になれた大人の感覚です。
気をつけて頂きたいのは、つい、どんどん数の範囲を広げて、いきなり「10は？」とならないようにすることです。

教科書では、「5まで」「6まで」...というように、1時間ずつかけて、数の合成分解をします。

それは、慣れさせるためです。

慣れていないうちに、どんどん数を増やすと、

「難しい」「分からない」「したくない」になります。

そうなる**と慣れる前に嫌いになります。**

おもしろがって、ぱっと答えられる範囲を繰り返し、

「もっと、増やして！」となってから増やして

いくことをお薦めします。

※例えば、4までの数のカードについて、
どんな並びでも、ぱっと答えられるようになったら、
1増やして5までにします。

4や5について、ぱっと答えられない子に、8や9を
見せると1つ1つ数え始めます。
それでは、意味がありません。

「こっちに4、こっちに5があるから9」となるため
には、4や5に慣れてないと無理です。

あわてずに、ちょっとずつ慣れさせて下さい。
慣れてきたら、楽しくなって
「もっと増やして！」になります。

































































なれてきましたか？

イラストでもいいし、テーブルの上にブロックやおはじき、あめ玉などを置いて、おぼんなどでかくし、ぱっと一瞬だけ見せて、また、隠す、というやり方でもいいです。

ポイントは、「一瞬」です。（お子さんのレベルに合わせて）

また、答えさせた後に、

「どうして、すぐ分かった？」と聞いて下さい。

「だって、四角にならんでいて、真ん中に1こあったから、5こって分かった。」

...この子は、4と1で5 が分かっています。

「2が3こ並んでいたから」

...この子は、数を2のまとまりで、2、4、6...と見ることができています。

あまりばらばらにしすぎるより、まとまりや形を意識した方がいいです。

特に、下のような「5といくつ」が、ぱっと分かるようになると、

「5と3で8と分かった!」「あと2で10」
というように10に強くなります。

こうなれば、この後のたし算、ひき算も、とても簡単にできます。

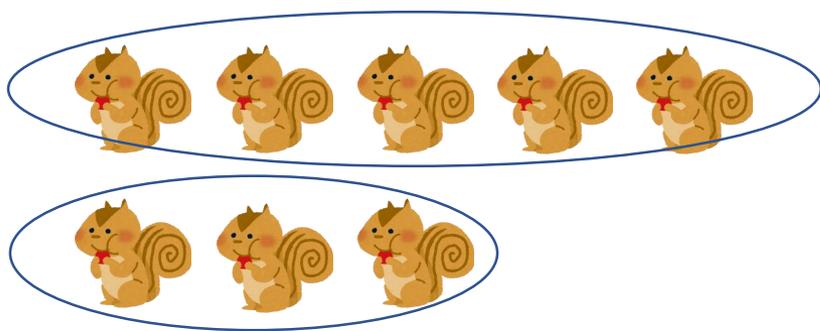
とにかく、「遊んで慣れる」これに尽きます。



また、同じ8でも、並び方を変えることで、
☆左の並びは、5と3で8

(一つの数を2つの数の和として見る見方)

☆右は、2, 4, 6, 8, 10 といった同じ数のま
とまりで見える見方(積...つまり、かけ算で見える見方)
といった2つの見方を身に付けることにつながります。



ちなみに、2つ目の見方ができたら、2年生の九九にも直結します。

「これは、2こずつが4つ。2×4っていうよ。」
となります。

1年生の学級では、よく、フラッシュカードを作って、同じ数を、並びを変えて、ぱっと見せて答えさせていました。

また、小さいホワイトボードに、丸磁石を並べて、一瞬みせる、といった方法もあります。



どっちも 9 !



～おわりに～

最後のスライドまで見て下さり、ありがとうございました。

繰り返しになりますが、数の感覚は「慣れ」が大事です。慣れるためには、短時間でもいいから、毎日でなくてもいいから、続けることです。

しかし、子供たちは同じような刺激では、すぐに飽きてしまいます。低学年算数は、いかに、飽きさせず、楽しく取り組ませるかが勝負です。（私は、イラストを変えたり、出し方を変えたり、授業の最初に毎回ちょっとだけフラッシュカードをしていました。また、カードに限らず、何かとかぞえさせていました。）

「楽しみながら、数になれる」ために、1年生用のトランプ遊びのスライド資料も作成していますので、ご活用下さい。

また、保護者の皆様向けに、「やる気を高める関わり方」のスライド資料もあります。併せてご活用下さい。

福岡県教育センター 指導主事

以下、フラッシュカードです。

(おまけ)









